建災防 埼玉県支部 新支部長に首藤氏

25年度支部代議員会開催

代議員約80人が参加

首藤新支部長

建設業労働災害防止協会埼玉県支部（島村健支部長）は3日、2025年度の支部代議員会をさいたま市内の埼玉建産連研修センターで開催し、本年度の事業計画、役員改選など5議案を承認した。任期満了に伴う役員改選では新支部長に首藤和彦氏（八生建設代表取締役）が就任。副支部長には関根勇治氏（初雁興業代表取締役）が再任されたほか、新副支部長に中原誠氏（中原建設代表取締役）および真下敏明氏（真下建設代表取締役）が就いた。島村健支部長（島村工業代表取締役）は常任顧問に就任した。

島村支部長は総会に先立ち「建設業を取り巻く環境は依然として技能労働者の不足や若年入職者の減少など、労働災害の増加が懸念される。また週休2日制をはじめ、長時間労働の削減を始めとする働き方改革への取り組みや労働環境を整えていかなければならない」と強調。加えて「関係官庁ならびに関連団体との連携を図り労働災害のさらなる減少と本県建設業の安全衛生水準の向上に努めていく所存」と抱負を述べ、参加者により一層の協力と理解を求めた。

また新支部長に就任した首藤氏は「皆さまの協力がなければ会議運営が成り立たない。引き続きのご支援よろしくお願いいたします」とあいさつした。

本年度事業計画においては本年度も「一人KY推進運動埼玉」を実施。また技能講習をはじめとする各種安全衛生教育を行うほか、働き方改革の推進、メンタルヘルス対策の普及促進などに取り組む。

来賓には、厚生労働省埼玉労働局の片淵仁文局長と埼玉県建設産業団体連合会の積田優副会長らが祝意に駆け付け、労働災害撲滅へさらなる安全対策の徹底を呼び掛けた。

なお、分会長は次の通り。

▽浦和分会長…猪股和則氏（日清建設）▽川口分会長…姉崎祐二氏（姉崎興業）▽大宮分会長…山崎聡亮氏（山崎工務店）▽熊谷分会長…越智博文氏（東亜興業）▽川越分会長…中里一夫氏（中里建設）▽春日部分会長…名倉泰史氏（名倉建設）▽所沢分会長…平岩敏和氏（平岩建設）▽行田分会長…山本利和氏（イートラスト埼玉）▽秩父分会長…千島宏晋氏（三国建設）

埼造協 安全確保を再確認

定時総会開き議案承認

阪上会長

埼玉県造園業協会（阪上清人会長）は23日、2025年度定時総会をさいたま新都心のホテルブリランテ武蔵野で開催した。24年度決算、役員旅費規程の全2議案を承認。また25年度事業計画、収支予算が報告された。

阪上会長は「担い手不足が深刻化する一方、近年ではアナフィラキシーショックによる死亡事故、不適切な作業手順による伐採事故が多発している」と述べた上で「安全の確保は何より重要」と呼び掛けた。

また建設業の新3K（給与、休暇、希望）に触れて「協会の一層の振興を図るため、先頭に立ち、引き続き旗振り役を担う」と決意表明。具体的に力を入れている取り組みとして「会員拡大」「自由民主党造園業振興懇話会との連携」「支部の再編成検討」を挙げた。

懇話会による県への働き掛けなどに謝意を示して「今まで解決できなかった課題が見えるかたちで進展している」ことを報告。また支部の再編成に関しては、協会の48年の歴史の中で「何度か話し合われてきた」と述べて「将来にわたって会員に損失が生まれないよう、丁寧に進めていきたい」と強調した。

25年度事業計画には、緑化事業の推進と緑化意識の普及啓発、造園技術の維持向上に向けた研修などを位置付けた。

また青年部会長に北田雅也氏から田上貴氏に代わったことも紹介された。田上部会長は「受け継いだバトンを次に渡していけるよう活動していきたい」とあいさつした。

総会後には武蔵一宮氷川神社の権宮司、東角井真臣氏が「大宮公園と氷川神社について」と題して講演を行った。

その後の懇談会には、大野元裕知事ら多数の来賓が出席。協会の活動に感謝の言葉を述べた。

埼測協が通常総会行う

3つの目標に向け努力を

及川会長

埼玉県測量設計業協会（及川修会長）の第55回通常総会が23日、さいたま市内のTHE MARK GRAND HOTELで開かれた。

及川会長は、1月の八潮市の道路陥没に関わる東部地区協議会の会員に対し、労いの言葉を述べた後、「測量設計業界を取り巻く環境は、災害対応の高度化、インフラの老朽化対策、DXの推進や働き方改革など、多岐にかつ複雑な課題を抱えている。県内の土木系高校へ3次元測量の講習会を行う、次世代三次元測量の会員研修会の開催、中長期に向けた測量ビジョンとロードマップを今年の12月までに報告するといった3つの目標を掲げさせていただいた。協会としても地域社会の安全と発展に貢献するという使命のもと、日々技術の研さんと体制の強化に努めている。今日は、皆さまからのご意見を賜りながら、より実効性のある運営方針を確認したい」とあいさつし、2期4年目の抱負を述べた。

来賓からは、加米卓三県土整備部副部長が「日ごろより貴協会は測量業界の発展に寄与され、多くの社会貢献活動に、改めて感謝を申し上げる。公共事業における技術力の向上、品質確保に向け今後もお力添えをお願いしたい」と吉澤隆部長のあいさつ文を代読した。

議事に移り、2024年度事業報告書と収支決算書の承認について審議し、原案どおり全会一致で可決。続いて25年度の事業計画および収入・支出予算書について報告が行われた。

事業計画には、機関紙『測量&設計』の編集と発行・配布、『測量の日』記念行事の推進、測量技術に関する講習会や経営に関する講習会の開催、県等公共団体主催の研修会への講師派遣、県関係部局長や政党との意見交換会、測量ビジョンの計画策定、全測連や県建産連の活動への参画などを盛り込んだ。

また総会に先立ち、永年勤続者を表彰。及川会長から受賞者に表彰状と記念品が授与され、勤続30年以上で表彰を受けた、神内宏明氏（大洋画地）が代表して謝辞を述べた。

総会終了後には来賓多数を招き、懇親会を開催。参加者は和やかに交流を図り、親睦を深めた。

全議案が慎重審議された

埼地協 新会長に関口氏就任

第44回通常総会を開催

関口新会長

吉澤部長

埼玉県地質調査業協会は23日、第44回通常総会をさいたま市内の浦和ワシントンホテルで開き、5期10年にわたり会長職を務めた越智勝行氏に代わり、新たな会長に関口彰伸氏（光洋土質調査）が就任した。関口新会長は「2007年度から協会役員に携わり19年経つが、時代も大きく変わった。会長として未だ未熟だが誠心誠意、精一杯がんばってまいりますのでご支援ご協力を」と決意を述べた。

冒頭のあいさつで越智会長は、県土づくり優秀委託業務表彰に新たに課所長表彰が導入されたことを紹介。越智会長は、従来の部長表彰が導入される前に、表彰制度の導入を2014年に当時の県土整備部長に陳情し、2年後に実現を果たすなど、熱心に活動してきた。そして「今後は会員企業が優秀賞まで取れるような時代が一日も早く来ることを期待する」と述べた。続いて八潮市の道路陥没事故について、「県から新たに埼玉県全域の調査要請があった。これは下水道局4事務所に渡る総延長155㎞を対象に、延べ2000カ所のスウェーデン式サウンディング試験を実施するというもので、先行して7月末を目標に1000カ所実施するため、これまでに4社が手を挙げてくれた」と報告。県の期待に応えられるよう協力していこうと呼び掛けた。

続いて議事に移り、前年度の事業報告や収支決算、剰余金処分案、本年度の事業計画や収支予算について承認した。本年度の事業計画は、地質調査業の社会的役割と責任を認識し、経営基盤の確立と技術力の向上を図り、社会的地位の確立・向上をめざし、現場見学会や技術講演会など、さまざまな事業を行う。

任期満了に伴う役員改選では、最初に役員立候補者から役員7人を承認した後、役員の互選により会長に関口氏、副会長に大和田茂氏（東建ジオテック）、監事に高橋昭彦氏（関東地質）と竹下綾一郎氏（総合地質コンサルタント）、総務厚生委員長に山口はづき氏（服部地質調査）、広報委員長に上原豊氏（協和地質コンサルタント）、技術委員長に岡野英樹氏（東建ジオテック）をそれぞれ選任した。

総会終了後の懇親会であいさつに立った関口新会長は「八潮の陥没事故では災害支援で調査をした。私は副会長として県との窓口になり、通常業務でもボーリングマシンが足りない年度末の2月、明日にでも数台のマシン提供しなければならない状況の中で私が思ったことは、本当にできるのかということと、やらなければならないという責任感だった。そうした中、協会の皆さまに相談したところ、地元埼玉でこのような災害が発生したのだから、何とかしようという熱く力強いお言葉をいただき、タイトな工程で厳しい現場だったが、先日、無事に終了することができた」と報告し、感謝の言葉を述べた。続けて「協会は県土の強靭化、県民の安心安全のために今までがんばってきた地元を愛し、地元に貢献できる組織。これからも時代に応じた技術を駆使して社会的要請に応えていこう」と協力を呼び掛けた。

来賓には大野元裕知事代理で県土整備部の吉澤隆部長、埼玉県議会から白土幸仁議長、顧問を務める小島信昭議員ら多数が出席した。吉澤部長は「八潮市内の道路陥没事故では現場に駆け付け、協会をあげてご協力いただいたことは、作業の大きな助けとなった」と感謝を述べ「全ての方が安心して道路や下水道を利用できるよう取り組んでいく」と県の施策へ引き続き協力を求めた。

総会では上程議案を原案通りに承認した

埼玉で全国植樹祭開催

天皇陛下がお手植え

大野知事「活樹」の重要性強調

第75回全国植樹祭が25日、秩父市と小鹿野町に跨る秩父ミューズパークを主会場に開かれた。埼玉県内で開催されるのは66年ぶり2回目。当日はエミテラス所沢、深谷テラスパーク、モラージュ菖蒲の県内3カ所のサテライト会場で式典がライブ中継され、多くの県民が天皇陛下のお手植えお手播きを見つめた。

式典会場となった秩父ミューズパークには、大会会長の額賀福志郎衆議院議長、小泉進次郎農林水産大臣ら多くの来賓が出席。主催者あいさつで大野元裕埼玉県知事は「多くの恵みをもたらす森林資源を将来に受け継いでいくために、植えるのみならず植えて育てた森林を活かしていくことも重要であり、これからは森林資源の活用、木材の利用拡大を図る活樹を推進していく必要がある」と強調。続けて「この大会を契機に県民全体で森林を守り育てるとともに、森林資源の循環利用を図る活樹の重要性を本県から全国に発信していく」とあいさつ。天皇陛下からは「近年、気候変動の影響がより顕在化してきている中、森林が持つ役割の重要性はますます高まっています。健全な森林づくりや木材の利用をさらに進める運動が、ここ埼玉の地から全国へ、そして未来へとつながっていくことを願います」とおことばを述べられた。その後、天皇陛下はケヤキ、スギ、トチノキの3種の苗木をお手植え、そしてヒノキとアカシデの2種をお手播きされた。

式典は県内3か所のサテライト会場でライブ中継された（写真は深谷テラスパーク）

こども建設王国2025 越谷で初開催

日塗装・埼塗協青年部も参加

建設業の魅力を子どもたちに伝える体験型イベント「こども建設王国2025」が25日、越谷レイクタウンの大芝生公園で初開催された。主催は建設職人甲子園で越谷市教育委員会が後援した。29の企業・団体が参加し、建設業界の多彩な仕事を親子で楽しみながら体験できる機会を提供。30を超える体験ブースが設けられ、子どもたちは興味のある建設関連の体験に挑戦した。

塗装業関連のブースでは、日本塗装工業会と埼玉県塗装業協同組合の青年部が協力し、さまざまな塗装体験を提供した。子どもたちはアクリル塗料を使い、竹とんぼ、小物入れ、ミニ植木鉢の塗装に挑戦。また、金属製ミニダストボックスには、エージング技法を用いた塗装体験も実施され、経年変化を表現する楽しさを体感した。

参加した保護者からは、「建設業といっても、これほど多様な分野があるとは知らなかった」「子どもが早い段階で職業について考える機会になった」「今後も成長に合わせて、いろいろな体験に参加させたい」といった前向きな声が多く寄せられた。

会場では、地元ダンスチームによるアトラクションや、左官職人との左官塗り対決、大工の上棟式など、体験以外のイベントも多く実施され、終日にぎわった。

多くの来場者で賑わった

さまざまな塗装体験を提供した

先人の尽力に謝意

元国交次官 佐藤直良 氏

瑞宝重光章を受章

2025年春の叙勲で、本紙に「山高水長」を連載中の元国土交通省事務次官、佐藤直良氏が瑞宝重光章を受章した。

9日に皇居で開かれた伝達式に夫婦で参列、勲章を贈られた。

佐藤氏は「家族、友人、仕事の先輩、同僚、後輩、そして何よりも長い歴史を持つ国土交通、とりわけ建設の世界で連綿と続く先人の方々のご尽力のおかげ」と周囲への謝意を示した。

建設分野全体が社会的に貢献してきたことの意義を強調。その上で「働く人、一人一人を大事に、特に現場で働く人が誇りと責任感をより全うできるような活動を、新たな気持ちで続けていきたい」と述べた。